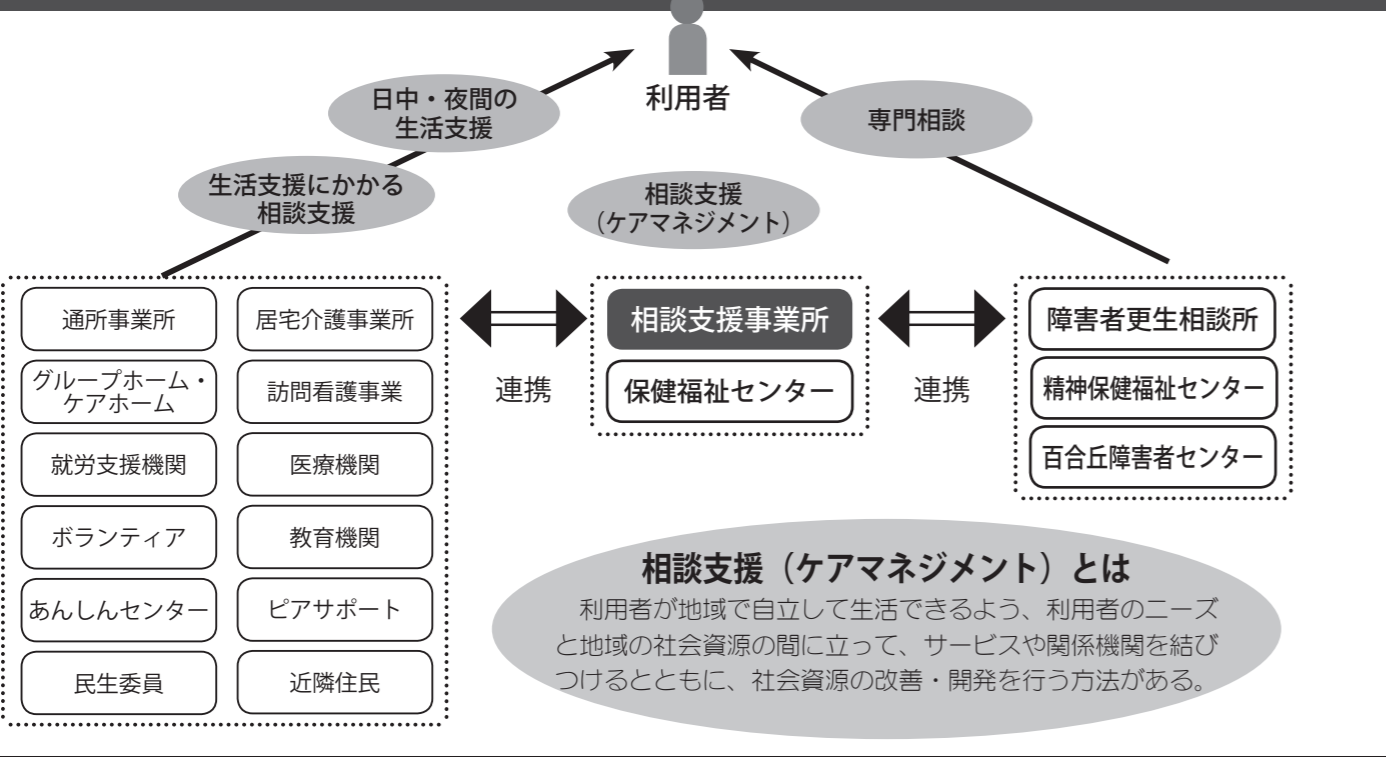
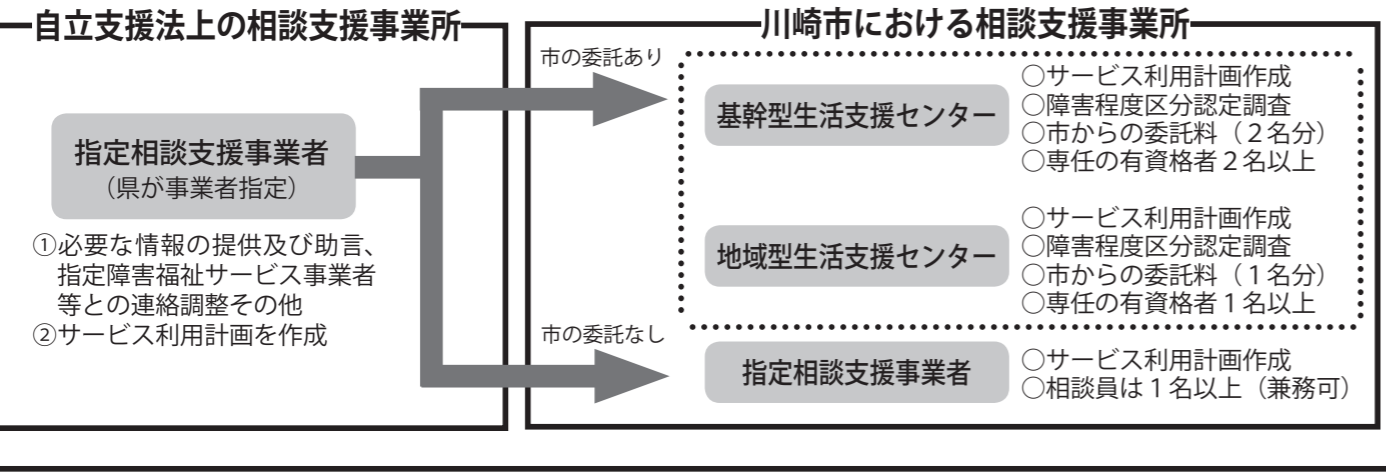


川崎市における相談支援事業の見直しに向けた取り組みについて

1. 障害者の地域生活を支える体制



2. 相談支援事業所の形態



3. 相談支援事業所の業務と設置数

○相談支援事業所の業務

	業務	基幹型	地域型	指定
相談	情報提供・助言	○	○	○
	個別生活相談	○	○	○
サービス利用支援	福祉サービスの利用援助	○	○	○
	関係機関との連携調整	○	○	○
	サービス利用計画の作成	○	○	○
	障害程度区分認定調査	○	○	○
自立支援協議会	支援困難事例への対応	○		
	地域型への助言・指導	○		
	地域のネットワークの構築	○		
	地域自立支援協議会の運営	○		

○区別相談支援事業所設置数

区	総数	基幹型	地域型	職員数	指定
川崎	4	2	2	6	1
大師	1	0	1	1	0
田島	0	0	0	0	0
幸	4	1	3	5	1
中原	5	2	3	7	1
高津	6	2	4	9	1
宮前	4	2	2	6	1
多摩	7	1	6	8	1
麻生	4	2	2	6	1
合計	35	12	23	48	7

※「職員数」は基幹型と地域型の相談支援専門員の合計

当事者からの報告

相談支援はどうなるの 川崎市の説明会に、当事者と家族が30名以上集まりました。

私たちは、今までの福祉制度の制度設計のあり方について、常に当事者が置き去りにされ、行政側のみによって構築されていく制度に対し、過去幾度となく異を唱えてきましたが、行政側の対応は、「パブリックコメントや自立支援協議会等で、当事者の意見は聞いている。」といった姿勢です。パブリックコメント等で意見を募る段階では、全ての事が決まっております。本当に「ただ聞くだけ」で終わってしまい、とても当事者に寄り添っているものはありません。私たちが求めるのは、すべてが決まる前の段階から、真摯に当事者の意見に耳を傾け、情報提供を行い、当事者にとってよりよい制度を共に構築していく事なのです。

このような思いの基、二度にわたる陳情によって実現した今回の説明会ですが、冒頭、障害計画課長が「案」の段階での説明会は初めてで、どのように進めて良いか」と仰っていた通り、説明会とはほど遠い内容でありましたし、本当に初めてなのだということ

もよくわかりました。何故、相談支援事業の再編案が出てきたかについて、行政側の説明で、「プロジェクトチーム↓自立支援協議会↓再編案」だと言う説明でしたが、説明会の始どの時間を使った、「相談支援事業とは」の部分で、当事者側が如何に「相談支援事業」自体を把握していないかが明白になり、再編どころか、そもそも「相談支援事業とは」を周知徹底していくところから、やり直さなければいけない話です。行政側の再編の根拠もよく解らない説明でした。それでも、当事者側とにかく情報が行き届いていないか、という事だけは明白になったと思いますので、再度説明会の開催を求めて行きます。

参加された方の感想

○子どもを送り出してからの途中参加で、話の内容がよく解りませんでした。話される方でも、どのように進めてよいか分からず...と、おっしやっています。

GDP 佐藤紀喜

したので、なおさらと思えますが、これから先、制度を決めてしまわれる前に、当事者の意見を聞きたいと思つて頂けるような対応を求めます。障害者手当を一方的に変更し削られたのですから、その分をどのように使われるのか、皆さんに納得のいく説明も必要かと思えます。

○生活支援センターが統廃合された後、どこの生活支援センターが残り、どこの生活支援センターが無くなるのか、具体的に名前を示してほしい。

自分が利用している生活支援センターが存続するのか知りたい。

○重度在宅障害者手当てを削減した財源を、確実に、ケアホームの設置・内容充実や世話人さん給与補填など、ホームを運営している事業者などに回してほしい。

現在の生活支援センターの相談事業などの結果実績などを、当事者向けに解り易く、説明してほしい。(市広報などで)今後もしもひんぱんに当事者及び事業者向

けに、生活支援センターについての説明会を開催してほしい。

以上です。

○支援センターの存在を知って、利用出来る人と、知らない人では、サービス利用の差も出て来ると思えます。福祉サービス全般の複雑化：その通りだと思います。この前頂いた資料を見ましたが、よく解らずこの様に色々な制度を作つて頂いても、それを知らず、解らずで利用出来ない人が多いのでは、意味がありません。どのように変えるのか、変えたいのか、解りやすく...を望みます。

○途中からだったので、皆さん以上に??で、消化不良でした。各保健福祉センターが、窓口になり、オールマイティーに、分かる人へ谷さんみたいに、がいて、相談に来た人を、各々に合った所を紹介すればと、思います。総合病院にある、振り分け外来のようにね。

甘いかなあ。

まあ、要するに、保健福祉センターが、もっと充実すればという話なんですけどね。

明日香のたまてばこ



今日は。ご無沙汰です。9月だといふのに、まだ暑いですね。8月の後半に一度涼しくなったせいで、体がそれに慣れてしまい余計この暑さは辛いです・・・。体調を崩さないように気を付けましょう。

8月、川崎市相談支援従事者初任研修というのがあり、この研修の「当事者のニーズ」という項目で、50分間話して来ました。6月末に北部リハビリテーションセンターの小島さんから「話してくれない？」と声をかけられ、気軽に「はい」と返事をしてしまったのです。少し謝礼が出ると言われ、それはやらなくちゃと思ったんです。自分の出来る範囲で、少し位は稼ぎたいです。

という訳で引き受けたものの、レジュメ作りが大変でした。私がパソコンを打つには、時間がかかるのに加え、体に負担がかかるので一気はダメだとリハの先生から強く言われています。今回もそうならないために、随分前から書き始めていました。ですが締め切りの前日に内容が突然分からなくなってしまう、悩み込んでしまったのです。どうしよう?? 頭の中は真っ白。それからパ

ソコンの前に座りっぱなし。あーあ、せつかく徐々にやったのに・・・。無事にレジュメ完成!! とりあえず、一安心。

当日、やはり緊張していました。控え室で、レジュメを見ながら話す内容を確認。大丈夫、大丈夫と自分を落ち着かせていました。いざ、皆の前へ! 思った以上に大人数でした。小島さんが横でサポートに入ってくれました。なんだあ!!! もっと早く言つてよおー。小島さんにサポートしてもらいながら、一通り話して時計を見たら、30分も早く終わってしまったのです。どうしよう??? やっぱり、時間配分は難しいなあ。その時です。ロンドの森村さんが質問をしてくれたのです。ありがとー!! おかげで、間が持ちました。

何とか無事終了。大成功とは言えませんが、まあ良かっただろうと自分で誉めていました。それにしても、人の前で話すというのは何度やっても慣れませんね。改めて感じた一日でした。

鈴木明日香

編集後記

台風の通過と共にようやく残暑も緩んできました。今年の夏は節電でサマータイムが導入され、我が家も一時間早く起床する毎日でした。朝の一時間は、時間が有効に使えるのですが、いかにせん夜も早くから眠くなってしまうのがいいのかわいのか。今月いっぱいこの生活も終わるのですが、来年はどうなるでしょうか。我が家は昨年比べて電気代がずいぶん減りましたが、エネルギーを使いすぎない生活をみんなが意識することで、効果は出るものだと実感できたのではないのでしょうか。これからしばらくは気候のよい季節ですが、次は「ウォームピズ」です。また毛糸を引っ張り出して、せっせと準備に励まなければ...です。(遠藤)

療ね 事務局便り

今号は6月・7月の会議の報告になります。

6月15日 参加者 職員4名、理事1名、親5名

★6月30日開催の総会にむけて、細かい役割分担・提案内容を話し合う。
 ○総会終了後、有志で座談会をした
 いねという話になり、提案することになり時間がなくなりボツになってしまいました。残念!!

★日中生活支援事業について
 ○Eさんより、生活介護事業を開始するなら、 Rond ならではの多機能な使い方をしてほしいという要望あり。
 ○総会終了後、日中生活支援事業準備委員会発足

7月20日 参加者 職員3名、理事1名、親9名

★総会についての感想・反省点の話し合い
 総会無事に終わることができました。皆さんありがとうございました。
 ○全体的に流れがスムーズにいかなかった。なぜそうだったかの反省内容が多くてました。↓来年にいかしまさす。
 ○良かったこと
 ・開催場所が中間に位置していて良かった。
 ・参加者が多かった

★ぼくらの夏休みについて
 ○Yさんより↓知的の方と重心の方

が一緒に難しいと思う。という意見がでた。今後の話し合いに活かしていきますよ

★事業所 Rond として
 「皆さんからこんなことをやってほしい」という提案があれば、皆さんと一緒に考えながら、必要な事を計画的に進めていこうと考えている。

★熊野さんよりルマサヤ報告
 送迎体制がなく毎日送り迎えしている

★日中生活支援事業について
 ○責任者 A 氏の紹介あり

ボランティアセンターから

震災・つながる・川崎 シンポジウム
 日時 2011年11月13日 13時～17時(予定)
 場所 川崎市立養護学校 体育館
 講演：藤原伸哉さん(釜石市・知的障害者入所更生施設「大松学園」職員)とシンポジウム
 主催：「震災、つながる、川崎」実行委員会

構成団体：NPO法人療育ねっとわーく川崎 社会福祉法人なごみ福祉会 社会政策研究会・かわさき

山田町青少年の家に避難されていた下村さんのご家族も来られる予定です。

ボランティアセンター今後の予定

青少年の家に避難されていた方々は、全員仮設住宅に移されました。テレビでも報道されていますが、仮設住宅に移ったからといって、決して安心できる状況ではありません。職がなく収入の道が途絶えたままの状態の中、支援物資の配給はなくなくなり、食事にも不自由されている方が出てきているそうです。青少年の家から移転された方は、広範囲の仮設住宅にわたっています。今後それらの仮設住宅の300世帯を対象にした支援を考えています。日用品・食料品を含めて、みなさんのご支援をお願いします。東北の冬の訪れは早いです。10月半ばには、山田町に支援物資を届けに行く予定です。
 必要な物資の情報は、随時、療育ねっとわーく川崎のホームページ <http://rond2981.jindo.com/> でお知らせします。



ました。そこは、いつもロンドの職員と「ここに新しい施設を作れたらいいね」と夢を語っていた場所でした。

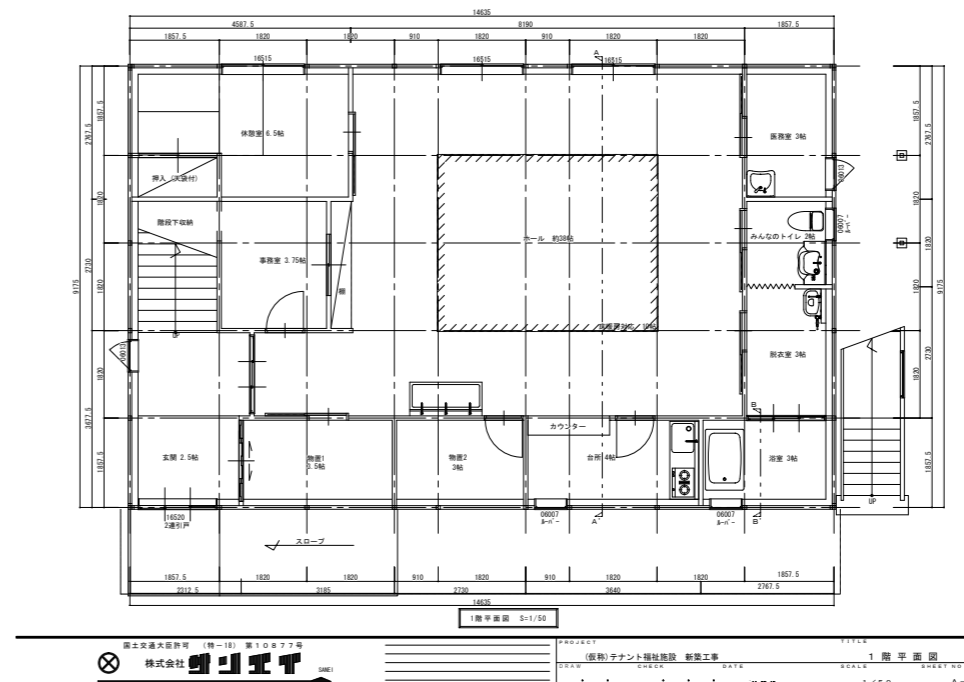
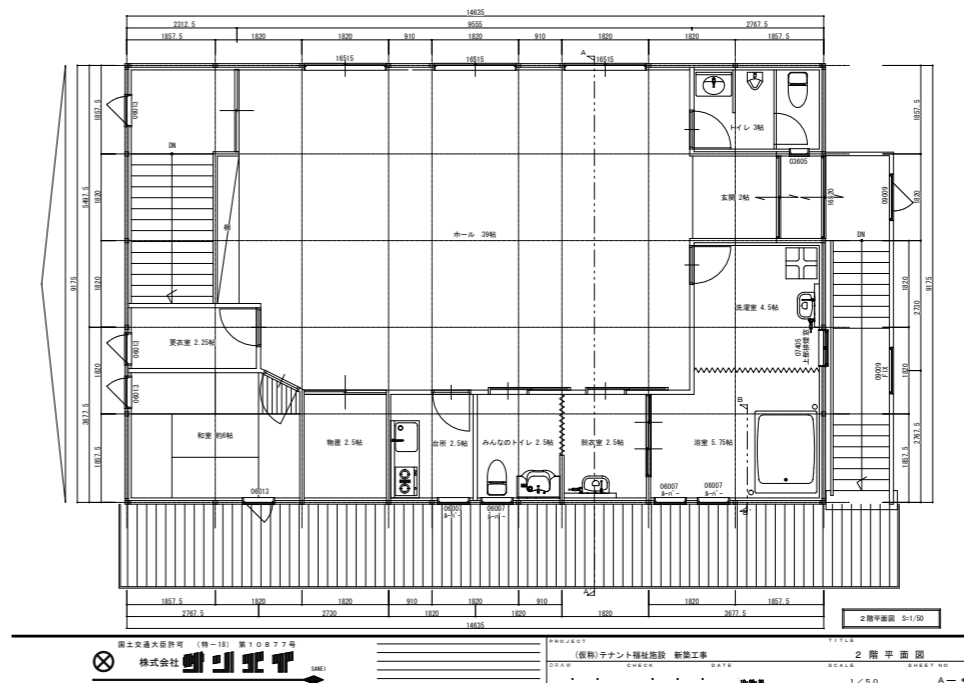
場所が決まったのが、3月。その後、建設責任者七瀬のもと、設計図の検討。「お風呂は1階と2階の2箇所」「水遊びが大好きな子どもたちのために、かもめにあつたような大きなお風呂がほしい」「ひとりになれるような個室がほしい」「医療

この2号館の開所は、12月を予定しています。機能としては、現在のサポートセンターロンドとほつとすてーしよんかもめで開いていた、幼児さんから成人までの（タイムケアを除く）滞在型のサポートをすべてここに集中します。現在のサポートセンターロンドは、ヘルパーズテーションとして、本部事務所になります。

広くて設備の整った新しい建物を水光熱費だけで貸してくださった家主の関口さんに、この場をお借りして、心からお礼を申し上げます。

サポートセンターロンドからのお願い
2号館への移転に伴いお願い
12月3日開所の集い
申し訳ありません。11月27日～12月3日まで、児童デイサービス・放課後まんぼう・成人のクラブ・ショートステイなどの事業をすべてお休みします。

ROCK開所に向けて



サポートセンターロンド2号館 ………12月開所予定

サポートセンターロンド2号館
サポートセンターロンドでは、当事者のニーズをもとに、2005年

度より未就学児を対象にした児童デイサービスを開始。2007年から、日中一時支援事業として、小学

生の放課後支援を始めました。今年1月からは、短期入所・日中短期入所も行うようになりました。いずれの支援事業も、希望者が多く、現在のサポートセンターロンドでは手狭になってきました。さらに、小学生の放課後支援の場としてお借りし、

できた「ほつとすてーしよんかもめ」をお返しする期限が迫ってきました。そんな事情をロンドの家主さんと不動産屋さんにご相談したところ、ロンドのすぐ近くのアパートを建て替えて、貸して下さることになり